

おはなしボランティアグループ
“しゃぼんだまふわふわ”の皆さん



消防団（マキノ地域）の
消防操法訓練の様子



消防活動に必要な技術を磨き非常事態に機敏に対処する能力向上を目的とした消防操法訓練大会が、6月25日に開催されます。大会に向け、4月28日から訓練が開始されました。団員は大会まで週約3回、まだ寒さも残る20時ごろから約2時間の訓練に励んでいます。コロナ禍により大会が2年間開催されていない中、操作内容も変更されたこともあり、一つひとつ礼式や動作、団員同士の連携の確認が繰り返し行われています。

「大会に向けた訓練とはいえ、動作を反復して体に染み込ませ、有事のときこそ発揮できる能力にして欲しい。」と青谷副団長は期待されています。

「しゃぼんだまふわふわ」の皆さんは、保育園や小学校、図書館や老人福祉施設などで、図書の読み聞かせを通じて市民とのコミュニケーションを図られています。

毎月行われる「西小朝のおはなし会」では、各教室へ出向き、児童の年齢や状況に応じた図書の読み聞かせをされています。また、固定した学年に年間を通じて同じ読み手が出向くことで、児童とより良い関係の構築を目指す工夫もされています。

代表の志連さんは「人は読書で言葉を学んだり感性が豊かになったりする。この活動が子ども達にとって本に興味関心が湧くきっかけになれば嬉しい。」と仰います。

本以外にも様々な情報が

火点と想定される標的に向かって懸命に駆けていく姿に、地域を火災から守ろうとする消防精神が表れており、額から流れる汗はとても輝いていました。



容易に入手できる時代ですが、読み聞かせることで、人の心の変化を知ったり豊かな感情を抱いたりすることが出来ます。教室はふわふわと優しい雰囲気包まれていました。